

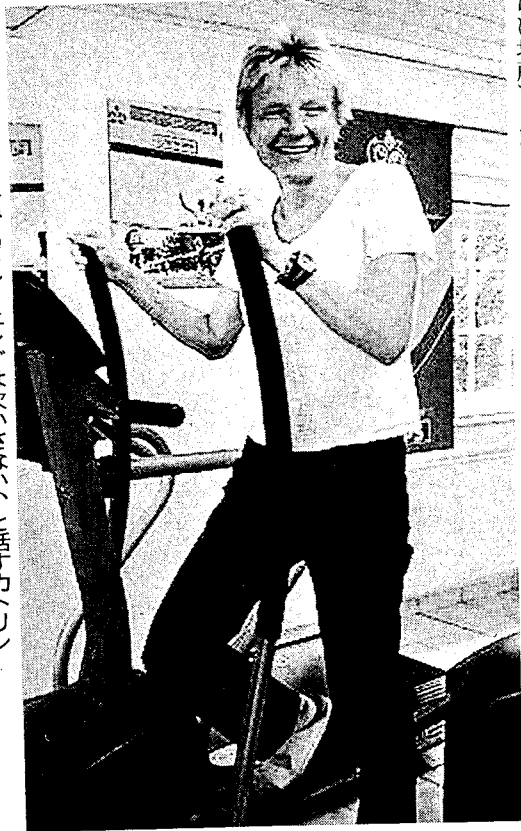


「暑さ、湿気日本に有利」

ドーレさん、世界陸上の展望語る

陸上の世界選手権大阪大会の開幕まであと1か月余りとなった。男女マラソンと同じコースで競われる大阪国際女子マラソンで4回の優勝経験を持ち、日本にもファンが多いカトリン・ドーレさん(45)

(ドイツ)が、大阪の暑い出や世界陸上の展望を語った。(ドイツ・エアバツハで、インタビュー・構成、千葉直樹)



今でもトレーニングは欠かさない、と話すカトリン・ドーレさん(ドイツの自宅で) 千葉直樹撮影

世界陸上の女子マラソンは日本人選手にチャンスが大きいと思います。事前の準備が素晴らしく、勝ちたいというメンタル面も強い。何より地元で走る強みがある。夏は暑くて湿気が高いが、この条件に体が慣れている。

日本のマラソンは本当に特別です。コースの最初から最後まで観客がいるし、応援も素晴らしい。大阪のコースは比較的平坦ですが、ムが期待できるのですが、大阪城の公園あたりはアップダウンがあって一番つらい場所でした。

体が小さいことも有利です。皮膚の面積が小さければそれだけ汗の量も少なく、失われる水分が少ない。それはアテネ五輪でも見られたとおり、ポーラ・ラドクリフ(英)も日本人に対して勝ち目がありませんでした。私も身長が170あるので、夏のレースでは、それがいつも足かせになり

カトリン・ドーレ 旧東独のライプチヒ出身。1988年ソウル五輪で銅メダル。日本でのマラソン優勝経験も多く、大阪国際女子マラソンは84、91、96、97年の4度優勝。東京国際女子でも3度優勝。自己ベストは2時間24分35秒。

ました。

大阪では有森(裕子)選手と走ることができて素晴らしい。私の少し後ろを走っていた彼女にぬれたスポンジを渡そうと思いついたら、スピードを落とさず、彼女を待っていました。私にとっては何でもないことだったので、私に「どうしてわざわざライバルを待っていたのか」と聞かれて翌日の新聞に、その場面の写真も載りました。「普通はそんなことしない」と言われて。

まだ半端だった娘の力タリーナをつれていったのも大阪でした。娘は今17歳で、欧州ジュニア選手権への参加資格も持っています。また若いのでマラソンはこれからです。才能は私よりある。三千、五千円では当時の私より記録が上なんです。